

平成33年度までの募集定員の公私比率等について

平成30年2月13日

高等学校生徒募集定員に係る公私比率等検討部会

高等学校生徒募集定員に係る公私比率等検討部会（以下「部会」）は、平成27年度から平成30年度までの募集定員の策定にかかる検証及び平成33年度までの公私比率等についての検討を行いました。ここに、そのまとめを、三重県公立高等学校協議会（以下「公私協」）に提言します。

1 経緯

募集定員の公私比率等については、本県の募集定員が大きく減少することが予想されたことから、平成25年6月、公私協のもとに、部会を設置して、平成33年3月までの中学校卒業生数の減少を見すえて協議し、平成25年12月に中長期的な方向性を「今後の高等学校生徒募集定員における公私比率等について」（以下「提言」）としてまとめました。

提言の主な内容は次のとおりです。

1 県立高校と私立高校の役割

県立高校と私立高校は、ともに公教育を担い、生徒・保護者の幅広い学習ニーズに応えるため双方がその役割を果たしている。

県立高校 = 県内の広域にわたり学校を設置し、教育サービスを保護者負担の面で受けやすくすること等により教育を受ける機会を保障するとともに、普通科のほか専門学科や総合学科を設置するなど多様な選択を可能にしている。

私立高校 = 設置者独自の建学の精神に基づき、県立高校にはない特色ある教育活動を展開したり、併設中学校と中高一貫教育を実施したりするなど、個性豊かな教育活動を展開している。

2 特色化・魅力化の必要性

中学校卒業生数が今後大きく減少することが見込まれ、高等学校生徒募集定員も減じていかなければならない状況にある中で、県立高校と私立高校は互いに切磋琢磨し、また協力して、一層の特色化・魅力化を図っていくことが求められる。

3 公私比率等の中長期的な方向性

今後の生徒募集定員の公私比率等については、将来的な比率を確定的に定めるものではないが、県立高校と私立高校の設置状況や中学校卒業生の増減及び進学状況等が地域によって異なることから、地域ごとに方向性を明らかにする必要がある。

① 桑名・四日市、鈴鹿・津地域

県立高校の比率がやや低く、私立高校の比率がやや高くなるよう募集定員を策定する

② 松阪地域、伊勢地域、伊賀地域、尾鷲・熊野地域

県立高校と私立高校の比率が大きく変わらないように募集定員を策定する。

なお、いずれの地域においても少子化の進行状況、中学生等の進路希望状況等を十分に考慮しながら、中学生等の進路を保障するという観点を重視して募集定員の策定を進めること、高校教育の多様な選択肢の維持・充実が図られ、各学校の一層の特色化・魅力化が進められるよう公私双方が努力することが求められる。

4 高等学校生徒募集定員の策定

県立高校及び私立高校の生徒募集定員については、将来的な公私比率等をあらかじめ設定するのではなく、中学校卒業生数をもとに、前年度及び近年の中学生の進路状況等を検証しながら、公私協の場で毎年度協議を行い策定することが必要である。

5 提言の検証

公私比率等の中長期的な方向性については、高校教育の多様な選択肢の維持・充実や学校の特色化・魅力化の推進が図られているか等の観点から5年後（平成30年度）を目途に、部会を改めて設置して検証を行う。必要があれば早期に検証する。

平成27年度以降の募集定員は、この提言をふまえて公私協において毎年度協議し、策定してきました。提言では「5年後（平成30年度）を目途に検証を行う」とされていますが、中学校卒業者が平成29年3月から平成33年3月までの4年間で、約1,800人と大幅に減少することや、平成29年度の公私協での部会の早期設置が必要との意見をふまえ、平成29年9月に改めて本部会を設置し、検証を行うこととしたものです。

2 平成30年度までの募集定員の策定に係る検証

平成25年の提言では、募集定員の策定にあたり、少子化の進行状況や中学生等の進路希望状況を十分に考慮し、中学生の進路を保障するという観点を重視すること、高校教育の多様な選択肢の維持・充実が図られるよう努めていくことが必要である旨、示されています。

このため、検証にあたっては、募集定員と公私比率の推移（参考1、参考2）に加え、全日制高校への進学率（参考3）や進路希望と進学実績の状況（参考4、参考5）、県立高校と私立高校の定員の充足状況（参考6）等を資料として検討を行いました。

(1) 県全体の状況

①募集定員と公私比率

平成27年度から平成30年度までの各年度の募集定員の増減については、平成27年度は545人の減となり、県立高校が465人、私立高校が80人を分担しました。平成28年度は25人の増を私立高校で増やし、平成29年度の280人の減と平成30年度の80人の減は、すべて県立高校で減じました。

4年間で合計880人の減となり、その内訳は県立高校825人、私立高校55人となっています。その結果、公私比率は平成26年度の78.0 : 22.2から、平成30年度には77.3 : 23.1となり、県立高校で0.7ポイント低下し、私立高校で0.9ポイント上昇しました。

(入学年度)		平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成30年度 (対26年度比)
中学校卒業見込者数		18,375	17,797	17,844	17,514	17,459 (▲916)
県内全日制入学見込者数		16,756	16,196	16,204	15,904	15,837 (▲919)
募集定員	県立	13,065	12,600	12,600	12,320	12,240 (▲825)
	私立	3,715	3,635	3,660	3,660	3,660 (▲55)
	計	16,780	16,235	16,260	15,980	15,900 (▲880)
公私比率 県立 : 私立		78.0 : 22.2	77.8 : 22.4	77.8 : 22.6	77.5 : 23.0	77.3 : 23.1

※ 公私比率の合計が100を上回るのは、生徒の学校選択の幅が広がるように、県内全日制高校入学見込者数に対して、県立高校と私立高校の募集定員に重なりを設けているためである。

②中学生の進学状況

県立高校と私立高校を合わせた県内全日制高校への進学率は、平成27年度（平成26年度卒業生）以降は、年度によってやや高くなったり低くなったりするなかで、平成25年度卒業生が88.1%であったのに対し、平成28年度卒業生は87.7%と3年間で0.4ポイント低下しました。一方で、高等専門学校への進学率は2.1%

から2.4%と0.3ポイント、通信制高校への進学率は2.7%から3.2%と0.5ポイント、それぞれ上昇しました。このように高等専門学校と通信制高校への進学率が高まり、県内の全日制高校への進学率は低下しています。なお、通信制高校への進学は、私立高校（本校が県外にある高校を含む）が9割以上です。

(卒業年度)	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
中学校卒業生数	18,382		17,797		17,848		17,512	
県内全日制進学者数	16,190	88.1%	15,617	87.8%	15,698	88.0%	15,354	87.7%
高等専門学校進学者数	395	2.1%	386	2.2%	414	2.3%	414	2.4%
通信制高校進学者数	495	2.7%	549	3.1%	539	3.0%	563	3.2%

※ 進学者数の割合は、中学校卒業生数に対する割合である。

平成28年度の中学3年生の進路希望と進学実績をみると、県立全日制高校への進学希望は7月時点で約84%ですが、進学実績は約69%となっており、約15%の中学生が県立全日制高校以外の進路に変更しています。県内私立高校への進学希望は7月時点で約8%ですが、進学実績は約19%となっています。なお、県内私立高校については、県立高校再募集後の辞退者もあります。

また、県外全日制高校への進学実績も7月時点の進学希望と比べ、約1ポイント増加しています。このことから、7月時点では県内県立高校を希望していても、受検までの段階で、県内の私立高校や県外全日制高校、高等専門学校や通信制高校等へ進路を変更している状況がわかります。

(平成28年度)	進路希望				進学実績	
	7月		12月			
県内県立全日制進学者数	14,635	83.7%	13,251	75.7%	12,043	68.8%
県内私立全日制進学者数	1,409	8.1%	2,350	13.4%	3,311	18.9%
県外公私立全日制進学者数	286	1.6%	402	2.3%	430	2.5%
計	16,330	93.4%	16,003	91.4%	15,784	90.1%
中学校卒業（見込）者数	17,489		17,501		17,512	

※ 進学者数の割合は、中学校卒業（見込）者数に対する割合である。

(2) 地域ごとの状況

① 桑名・四日市地域

平成27年度から平成30年度までの募集定員の策定では、県立高校で280人、私立高校で34人の減となりました。その結果、公私比率は78.5:21.5と県立で0.5ポイント低下し、私立では0.5ポイント上昇しました。この地域では中学校卒業生の減少率が比較的小さかったことから、公私比率の変動は緩やかとなっていますが、概ね提言に示された方向性に沿った募集定員の策定が行われてきました。

この地域には県立高校が16校、私立高校が4校あり、高校教育の多様な選択肢が保障されていますが、県内の全日制高校への進学率は86.8%から85.9%と0.9ポイント低下しています。そうした中で、県立高校は定員を充足していますが、私立高校4校で合わせて100人以上の欠員が続いています。その原因として、隣接する愛知県の私立高校への進学者が多いこと、私立の通信制高校への進学者が増加していることがあります。

②鈴鹿・津地域

平成27年度から平成30年度までの募集定員の策定では、県立高校で240人、私立高校で6人の減となりました。その結果、公私比率は74.7：25.3と県立で1.1ポイント低下し、私立では1.1ポイント上昇し、提言に示された方向性に沿った募集定員の策定が行われてきました。

この地域には県立高校が14校、私立高校が3校あり、高校教育の多様な選択肢が保障されていますが、県内全日制高校への進学率は88.3%から88.1%と0.2ポイント低下しています。その原因として、高等専門学校や私立の通信制高校への進学者が増加していることがあります。

③松阪地域

平成27年度から平成30年度までの募集定員の策定では、県立高校で40人、私立高校で20人の減となりました。公私比率は68.2：31.8のまま変わらず、提言に示された方向性に沿った募集定員の策定が行われてきました。

この地域には県立高校が6校、私立高校が1校あり、高校教育の多様な選択肢が保障されており、県内の全日制高校への進学率は88.8%から89.7%と0.9ポイント上昇しています。私立高校で定員をやや上回って入学している年もありますが、県立高校ではほぼ定員を充足しています。

④伊勢地域

平成27年度から平成30年度までの募集定員の策定では、県立高校で145人の減となりましたが、私立高校は5人増加しました。その結果、公私比率は72.7：27.3と県立で2.0ポイント低下し、私立では2.0ポイント上昇し、提言で示された「大きく変わらないように」という方向性と異なる状況になっています。その原因として、県全体の中学校卒業生数が平成28年3月にやや増加する見通しから、私立高校の募集定員総数を増やしましたが、この地域では、中学校卒業生数が減少する予測に対応して県立高校が募集定員を減じた一方で、私立高校では増やしたことがあります。

この地域には県立高校が9校、私立高校が2校あり、高校教育の多様な選択肢が保障されています。県内全日制高校への進学率は年度ごとに小さな増減があるものの、この4年間では変わっていません。私立高校で定員を充足している一方で、県立高校では毎年合わせて70人以上の欠員があり、私立高校で募集定員を超過して入学する人数が多くなると県立高校の欠員も多くなる状況があります。

⑤伊賀地域

平成27年度から平成30年度までの募集定員の策定では、80人の減をすべて県立高校で対応しています。その結果、公私比率は87.2：12.8と県立で0.7ポイント低下し、私立では0.7ポイント上昇し、提言で示された「大きく変わらないように」という方向性と異なる状況になっています。その原因として、中学校卒業生の減少に対して、募集定員の減を私立高校では行わず、県立高校のみで対応したことがあります。

この地域では平成28年度に県立高校2校が統合したことにより、県立高校は5校となっています。一方で私立高校1校は地域外からの進学者が多いことから、高校教育の多様化や中学生の進路保障には、県立高校が大きな役割を果たしています。

隣接する関西圏の私立高校への進学者が比較的多い中で、県内全日制高校への進学率はこの4年間で86.0%から84.9%と1.1ポイント低下しており、その原因として、高等専門学校や私立の通信制高校への進学者が増加していることがあります。

⑥尾鷲・熊野地域

この地域には私立高校がないことから、平成27年度から平成30年度までの募集定員の策定においては、40人の減をすべて県立高校で対応しています。

これまでに引き続き、県立高校3校において、普通科に加えて専門学科や総合学科を設置することなどにより、高校教育の選択肢を保障していますが、隣接する和歌山県の高校への進学者が比較的多い中で、これら3校への進学率はこの4年間で、90.0%から88.5%と1.5ポイント低下しており、欠員が広がりつつあります。その原因として、他地域にある高等専門学校への進学者が増加していることがあります。

3 平成33年度までの公私比率等について

中学校卒業者数は、平成30年3月から平成33年3月までの3年間で約1,760人と、大幅に減少することが予測されており、これに伴い、全日制高校の募集定員も、1,600人余り減少することが見込まれます。このような中で、今後も中学生の進路を保障するという観点を重視し、県立高校と私立高校の双方により高校教育の多様な選択肢の維持・充実を図りながら、県民の理解が得られるよう、以下に示すように募集定員を策定することが求められます。

(1) 中学校卒業者数の予測をふまえた毎年度の募集定員の策定

今回の検証において、県内全日制高校への進学率はやや低下する傾向にあるものの、前年より上回る年もあることに加え、定時制、通信制、高等専門学校などの全日制高校以外への進学や県外の高校への進学についても、年度によって異なる状況がみられました。また、中学校卒業者数の予測も、毎年度在籍者数を確認してできる限り正確に算出する必要があります。これらのことから、今後の募集定員についても、県全体や各地域における中学生の進路状況を検証しながら、中学校卒業者数の増減予測をふまえて、毎年度公私協の場で協議を行い策定する必要があります。

(2) 高校の特色化と魅力化、募集定員の大幅減への対応

今回の検証において、全日制高校を希望している中学生が最終的に通信制高校に進学する割合が高くなったり、欠員がある一方で隣接県の高校への進学者が比較的多い地域があったりするなど、県内の全日制高校への進学率が低下してきています。

これらのことから、中学生が高校を選択する際に重視する特色や魅力をふまえ、県立高校は活性化計画に基づき、私立高校は建学の精神に基づいて、切磋琢磨しながら一層の特色化・魅力化を図るとともに、これまで以上に多様な生徒を受け入れるよう努め、今後も双方が生徒・保護者の幅広い学習ニーズに応える公教育の役割を果たしていく必要があります。

こうした役割を果たしていくためには、これからも県立高校と私立高校の双方が公私協の場で協調して協議を行い、募集定員の大幅な減少を適切に分担することが必要です。

(3) 各地域の公私比率等のあり方と方向性

県立高校と私立高校がともに魅力ある学校づくりを進め、生徒・保護者の幅広い学習ニーズに応えながら、募集定員の大幅な減少に適切に対応していくためには、今後の公私比率を確定的に定めるものではないものの、その方向性を明らかにする必要があります。平成25年度の提言は、県立高校と私立高校の設置状況や中学校卒業者の増減及び進学状況等が地域によって異なることから、地域ごとに中長期的な方向性を示したものであり、今後もこの方向性をふまえて募集定員を策定することが適切です。

平成30年3月から平成33年3月までの3年間における各地域の中学校卒業生数の推移予測と募集定員の策定に係る公私比率等の方向性は次のとおりです。

なお、今回の検証をふまえ、募集定員総数が決定し、県立高校と私立高校それぞれが学校ごとの募集定員を決める段階においても、各地域の方向性をふまえつつ、地域の中学校卒業生数の増減に対応した募集定員とすることが求められます。

①桑名・四日市地域

中学校卒業生数は、平成33年3月までの3年間で約520人と、これまでの4年間と比べて大きな減少となることが予測され、これに伴い募集定員も大きく減少することが見込まれます。募集定員については、今回の検証結果をふまえ、引き続き、県立高校の比率がやや低く、私立高校の比率がやや高くなるように策定がなされる必要があります。

②鈴鹿・津地域

中学校卒業生数は、平成33年3月までの3年間でやや増加に転じる年があるものの約440人と大きく減少することが予測され、これに伴い募集定員も大きく減少することが見込まれます。募集定員については、引き続き、県立高校の比率がやや低く、私立高校の比率がやや高くなるように策定がなされる必要があります。

③松阪地域

中学校卒業生数は、平成33年3月までの3年間で約200人と、これまでの4年間と比べて大きな減少となることが予測され、これに伴い募集定員も大きく減少することが見込まれます。募集定員については、引き続き、県立高校と私立高校の比率が大きく変わらないように策定がなされる必要があります。

④伊勢地域

中学校卒業者数は、平成33年3月までの3年間で約350人と、これまでの4年間と比べて大きな減少となることが予測され、これに伴い募集定員も大きく減少することが見込まれます。募集定員については、今回の検証結果をふまえ、県立高校と私立高校の比率が大きく変わらないように策定がなされる必要があります。

⑤伊賀地域

中学校卒業者数は、平成33年3月までの3年間で約170人と、これまでの4年間と比べて大きな減少となることが予測され、これに伴い募集定員も大きく減少することが見込まれます。募集定員については、今回の検証結果をふまえ、県立高校と私立高校の比率が大きく変わらないように策定がなされる必要があります。

⑥尾鷲・熊野地域

中学校卒業者数は、平成32年3月までの2年間で約130人と大きく減少したあと、平成33年3月には約50人の増加が見込まれます。この地域には私立高校がないことから、県立高校だけでこれらの増減に対応した定員策定がなされる必要があります。

県全体の募集定員は、ここに示した各地域の公私比率等の方向性をふまえると、今後も県立高校の比率が低くなり、私立高校の比率が高くなっていくことが見込まれます。平成33年度までの今後3年間の公私比率については、年度ごと地域ごとに中学校卒業者数の増減などがこれまでと異なることから予測することは難しいものの、平成33年度には県立高校が75～76%程度、私立高校が24～25%程度となることを見込まれます。

4 おわりに

中学校卒業者数は平成34年3月には一旦、増加に転じますが、平成35年3月以降は再び減少傾向が続くことが予測されます。平成34年度以降の公私比率等の方向性については、ここに提言として示した公私比率等の方向性をふまえ策定した平成33年度までの募集定員や中学生の進路状況、高校教育の多様な選択肢の維持・充実や学校の特色化・魅力化が図られているか等の観点から検証したうえで、改めて検討する必要があります。

募集定員と公私比率の推移(県全体)

参考 1

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
中学校卒業見込者数(人)	18,375	17,797	17,844	17,514	17,459
計画進学率(%)	92.3	92.2	92.1	92.1	92.0
流出率(%)	98.8	98.7	98.6	98.6	98.6
県内全日制高校入学見込者数(人)	16,756	16,196	16,204	15,904	15,837
県立(人)	13,065	12,600	12,600	12,320	12,240
前年度比	—	▲ 465	±0	▲ 280	▲ 80
平成26年度比	—	▲ 465	▲ 465	▲ 745	▲ 825
私立(人)	3,715	3,635	3,660	3,660	3,660
前年度比	—	▲ 80	25	±0	±0
平成26年度比	—	▲ 80	▲ 55	▲ 55	▲ 55
計(人)	16,780	16,235	16,260	15,980	15,900
前年度比	—	▲ 545	25	▲ 280	▲ 80
平成26年度比	—	▲ 545	▲ 520	▲ 800	▲ 880
公私比率(%) 県立：私立	78.0：22.2	77.8：22.4	77.8：22.6	77.5：23.0	77.3：23.1
募集定員の公立・私立の重なり(人)	24	39	56	76	63
重なり(%)	0.1	0.2	0.3	0.5	0.4

※愛農学園・青山・ウィッツ青山学園の私立3校の募集定員を除く

※計画進学率：中学3年生の全日制高校への進路希望調査(12月)の過去5年間の平均値

※流出率：県外中学生の県内高校進学と、県内中学生の県外高校進学の流出入の割合の過去3年間の平均値

募集定員と公私比率の推移(地域別)

参考2

	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成26年度からの増減	
	県立	私立	県立	私立	県立	私立	県立	私立	県立	私立	県立	私立
桑名 四日市	16	4	16	4	16	4	16	4	16	4	▲ 280	▲ 34
募集定員(人)	4,600	1,220	4,440	1,195	4,440	1,186	4,400	1,186	4,320	1,186	▲ 0.5	0.5
公私比率(%)	79.0	21.0	78.8	21.2	78.9	21.1	78.8	21.2	78.5	21.5		
鈴鹿 津	14	3	14	3	14	3	14	3	14	3	▲ 240	▲ 6
募集定員(人)	3,760	1,200	3,640	1,170	3,640	1,194	3,480	1,194	3,520	1,194	▲ 1.1	1.1
公私比率(%)	75.8	24.2	75.7	24.3	75.3	24.7	74.5	25.5	74.7	25.3		
松阪	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	▲ 40	▲ 20
募集定員(人)	1,200	560	1,160	540	1,160	540	1,160	540	1,160	540	0.0	0.0
公私比率(%)	68.2	31.8	68.2	31.8	68.2	31.8	68.2	31.8	68.2	31.8		
伊勢	9	2	9	2	9	2	9	2	9	2	▲ 145	5
募集定員(人)	1,665	565	1,600	560	1,560	570	1,560	570	1,520	570	▲ 2.0	2.0
公私比率(%)	74.7	25.3	74.1	25.9	73.2	26.8	73.2	26.8	72.7	27.3		
伊賀	6	1	6	1	5	1	5	1	5	1	▲ 80	0
募集定員(人)	1,240	170	1,160	170	1,240	170	1,160	170	1,160	170	▲ 0.7	0.7
公私比率(%)	87.9	12.1	87.2	12.8	87.9	12.1	87.2	12.8	87.2	12.8		
尾鷲 熊野	3		3		3		3		3		▲ 40	0
募集定員(人)	600		600		560		560		560		0.0	0.0
公私比率(%)	100.0		100.0		100.0		100.0		100.0			
県全体	54	11	54	11	53	11	53	11	53	11	▲ 825	▲ 55
募集定員(人)	13,065	3,715	12,600	3,635	12,600	3,660	12,320	3,660	12,240	3,660	▲ 0.7	0.9
公私比率(%)	78.0	22.2	77.8	22.4	77.8	22.6	77.5	23.0	77.3	23.1		

※愛農学園・青山・ウィッツ青山学園の私立3校の募集定員を除く

県内全日制高校への進学者数と進学率の推移(地域別)

参考3

	卒業年度	中学校 卒業者 (A)	県内全日制進学者			計 (B)	県内全日制 進学率 (B/A)
			県内 県立	県内 私立			
				県内 県立	県内 私立		
桑名・四日市	平成25年度	6,177	4,247	1,113	5,360	86.8%	
	平成26年度	5,989	4,121	1,016	5,137	85.8%	
	平成27年度	5,975	4,143	1,031	5,174	86.6%	
	平成28年度	5,963	4,108	1,015	5,123	85.9%	
鈴鹿・津	平成25年度	5,465	3,715	1,109	4,824	88.3%	
	平成26年度	5,331	3,605	1,104	4,709	88.3%	
	平成27年度	5,337	3,544	1,151	4,695	88.0%	
	平成28年度	5,152	3,435	1,106	4,541	88.1%	
松阪	平成25年度	2,025	1,301	498	1,799	88.8%	
	平成26年度	1,982	1,232	538	1,770	89.3%	
	平成27年度	2,012	1,272	528	1,800	89.5%	
	平成28年度	1,986	1,239	542	1,781	89.7%	
伊勢	平成25年度	2,398	1,640	546	2,186	91.2%	
	平成26年度	2,319	1,566	555	2,121	91.5%	
	平成27年度	2,277	1,553	526	2,079	91.3%	
	平成28年度	2,263	1,549	514	2,063	91.2%	
伊賀	平成25年度	1,627	1,298	102	1,400	86.0%	
	平成26年度	1,496	1,197	93	1,290	86.2%	
	平成27年度	1,607	1,286	91	1,377	85.7%	
	平成28年度	1,530	1,182	117	1,299	84.9%	
尾鷲・熊野	平成25年度	690	596	25	621	90.0%	
	平成26年度	680	568	22	590	86.8%	
	平成27年度	640	548	25	573	89.5%	
	平成28年度	618	530	17	547	88.5%	
県全体	平成25年度	18,382	12,797	3,393	16,190	88.1%	
	平成26年度	17,797	12,289	3,328	15,617	87.8%	
	平成27年度	17,848	12,346	3,352	15,698	88.0%	
	平成28年度	17,512	12,043	3,311	15,354	87.7%	

中学3年生の進路希望と進学実績

参考4

卒業年度		募集定員	進路希望		進学実績
			7月	12月	
平成25年度	県内県立全日制	13,065	15,425	14,325	12,797
		78.0%	84.0%	78.0%	69.6%
	県内私立全日制	3,715	1,436	2,236	3,393
		22.2%	7.8%	12.2%	18.5%
	県外公私立全日制	—	256	361	447
		—	1.4%	2.0%	2.4%
計	16,780	17,117	16,922	16,637	
	100.2%	93.2%	92.1%	90.5%	
	卒業者数	18,375	18,369	18,372	18,382
平成26年度	県内県立全日制	12,600	14,858	13,631	12,289
		77.8%	83.5%	76.6%	69.1%
	県内私立全日制	3,635	1,495	2,332	3,328
		22.4%	8.4%	13.1%	18.7%
	県外公私立全日制	—	298	424	466
		—	1.7%	2.4%	2.6%
計	16,235	16,651	16,387	16,083	
	100.2%	93.6%	92.1%	90.4%	
	卒業者数	17,797	17,790	17,789	17,797
平成27年度	県内県立全日制	12,600	14,954	13,875	12,346
		77.8%	83.9%	77.7%	69.2%
	県内私立全日制	3,660	1,430	2,197	3,352
		22.6%	8.0%	12.3%	18.8%
	県外公私立全日制	—	266	425	444
		—	1.5%	2.4%	2.5%
計	16,260	16,650	16,497	16,142	
	100.4%	93.4%	92.4%	90.4%	
	卒業者数	17,844	17,827	17,852	17,848
平成28年度	県内県立全日制	12,320	14,635	13,251	12,043
		77.5%	83.7%	75.7%	68.8%
	県内私立全日制	3,660	1,409	2,350	3,311
		23.0%	8.1%	13.4%	18.9%
	県外公私立全日制	—	286	402	430
		—	1.6%	2.3%	2.5%
計	15,980	16,330	16,003	15,784	
	100.5%	93.4%	91.4%	90.1%	
	卒業者数	17,514	17,489	17,501	17,512

中学校卒業者の進路状況の推移

参考 5

卒業年度	中学校卒業者		進学者						通信制 進学者	就職 その他		
			全日制進学者			計	定時制 進学者	高専 進学者			特別支援 高等部 進学者	合計
	県内 県立	県内 私立	県外 公私立									
				人数	割合							
平成25年度	12,797	3,393	447	16,637	431	395	159	17,622	495	265		
	69.6%	18.5%	2.4%	90.5%	2.3%	2.1%	0.9%	95.9%	2.7%	1.4%		
平成26年度	12,289	3,328	466	16,083	394	386	148	17,011	549	237		
	69.1%	18.7%	2.6%	90.4%	2.2%	2.2%	0.8%	95.6%	3.1%	1.3%		
平成27年度	12,346	3,352	444	16,142	389	414	166	17,111	539	198		
	69.2%	18.8%	2.5%	90.4%	2.2%	2.3%	0.9%	95.9%	3.0%	1.1%		
平成28年度	12,043	3,311	430	15,784	372	414	159	16,729	563	220		
	68.8%	18.9%	2.5%	90.1%	2.1%	2.4%	0.9%	95.5%	3.2%	1.3%		

高校入学者・欠員・充足率の推移(地域別)

参考6

地域		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		県立	私立	県立	私立	県立	私立	県立	私立
桑名 四日市	学校数(校)	16	4	16	4	16	4	16	4
	募集定員(人)	4,600	1,220	4,440	1,195	4,440	1,186	4,400	1,186
	入学者数(人)	4,601	1,095	4,442	999	4,439	998	4,401	1,003
	欠員(人)	10	125	0	196	3	188	0	183
	充足率(%)	100.0	89.8	100.0	83.6	100.0	84.1	100.0	84.6
鈴鹿 津	学校数(校)	14	3	14	3	14	3	14	3
	募集定員(人)	3,760	1,200	3,640	1,170	3,640	1,194	3,480	1,194
	入学者数(人)	3,756	1,116	3,634	1,094	3,627	1,196	3,473	1,126
	欠員(人)	6	84	8	76	19	▲2	10	68
	充足率(%)	99.9	93.0	99.8	93.5	99.6	100.2	99.8	94.3
松阪	学校数(校)	6	1	6	1	6	1	6	1
	募集定員(人)	1,200	560	1,160	540	1,160	540	1,160	540
	入学者数(人)	1,195	533	1,152	583	1,163	557	1,153	571
	欠員(人)	5	27	9	▲43	0	▲17	7	▲31
	充足率(%)	99.6	95.2	99.3	108.0	100.3	103.1	99.4	105.7
伊勢	学校数(校)	9	2	9	2	9	2	9	2
	募集定員(人)	1,665	565	1,600	560	1,560	570	1,560	570
	入学者数(人)	1,559	640	1,497	673	1,490	628	1,482	597
	欠員(人)	107	▲75	103	▲113	74	▲58	78	▲27
	充足率(%)	93.6	113.3	93.6	120.2	95.5	110.2	95.0	104.7
伊賀	学校数(校)	6	1	6	1	5	1	5	1
	募集定員(人)	1,240	170	1,160	170	1,240	170	1,160	170
	入学者数(人)	1,236	96	1,155	89	1,232	92	1,150	91
	欠員(人)	5	74	6	81	14	78	12	79
	充足率(%)	99.7	56.5	99.6	52.4	99.4	54.1	99.1	53.5
尾鷲 熊野	学校数(校)	3	/	3	/	3	/	3	/
	募集定員(人)	600	/	600	/	560	/	560	/
	入学者数(人)	578	/	523	/	505	/	511	/
	欠員(人)	22	/	77	/	55	/	49	/
	充足率(%)	96.3	/	87.2	/	90.2	/	91.3	/
県全体	学校数(校)	54	11	54	11	53	11	53	11
	募集定員(人)	13,065	3,715	12,600	3,635	12,600	3,660	12,320	3,660
	入学者数(人)	12,925	3,480	12,403	3,438	12,456	3,471	12,170	3,388
	欠員(人)	155	235	203	197	165	189	156	272
	充足率(%)	98.9	93.7	98.4	94.6	98.9	94.8	98.8	92.6

※愛農学園・青山・ウィッツ青山学園の私立3校の募集定員を除く

※県外からの入学者、過年度卒を含む

三重県中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)

参考 7

平成29年5月1日調査
三重県教育委員会事務局教育政策課調べ



